

(世界史プリント8-8)

第17章 戦後世界と東西対立 1.戦後世界の出発と冷戦の開始

a. 国際連合の成立

① 1941 [1]]憲章=平和機構の再建などを決定 → 1942 連合軍共同宣言で再確認

② 1945,4 ~ 6 [2]]会議← 1944[3]]会議=米英ソ中で合意

[4]]の正式採択(50カ国で)調印= 10月[5]]結成

目的 6

<p>特徴:</p> <p>1. [7]]の強力な権限= 8 _____ の[9]]が [10]]権を持つ</p> <p>2.国際連盟の制裁権が[11]]に限られたのに対し、[12]]も可能となる。</p> <p>3.総会での議決は、国際連盟が[13]]を求めたのに対し、[14]]でよい。</p> <p>4.本部は連盟が[15]]だったのにたいし、[16]]におかれる。</p> <p>機関:総会、[17]]理事会、経済社会理事会、特別委員会、 専門機関(ユネスコ・ILO・WHOなど)</p>
--

③国際経済・金融協力体制=[18]](IMF)、国際復興開発銀行([19]])発足 (ブレトン=ウッズ体制)

b. 反ファシズム化の進行

①反ファシズム化の動き=民主主義化の進行

②[20]]条約…日独(+オーストリア)をのぞく旧枢軸国5カ国と締結

③ 1)ドイツの東部国境=[21]]線以東を放棄=[22]]に割譲 →ただしこの国の東部は[23]]が獲得

2)ドイツと首都[24]]を米・英・仏・ソの4カ国で[25]]

3)ドイツの民主化の徹底…戦争犯罪人への国際軍事裁判=[26]]裁判など

④日本占領…実質的には[27]]による単独占領、海外領土の放棄

↓
民主的諸改革の実施=[28]]制定、農地改革など、東京裁判

c. 冷たい戦争とヨーロッパ

①[29]]…ソ連の影響下に共産党主導の[30]]政権の樹立 →社会主義的政策の実施(ポーランド・ハンガリー・ルーマニアなど)

[31]]…ドイツへの抵抗運動の中で[32]]ら社会主義政権を樹立 →しだいにソ連の影響を離脱

②米英=東ヨーロッパでの社会主義勢力拡大への恐怖 (とくに[33]] [34]]での共産ゲリラの活動)

1)1946 チャーチル「35]]演説

2)1947[36]]発表=共産主義[37]]戦略開始 →反共政権(ギリシア・トルコ)の援助拡大、ヨーロッパの反共化を進行

3)1947[38]]=ヨーロッパ経済復興援助計画 大量のアメリカ資金による西ヨーロッパ諸国経済援助とソ連の排除 [39]]の加盟→ソ連との対立へ

③ 1947[40]]=共産党情報局結成 「コミンテルンの再開」 → 1948 ユーゴ除名 1949 東ドイツ加盟 1949[41]]=東ヨーロッパ経済相互援助会議結成

④軍事同盟の結成

1) 1948 [42]]でクーデタ発生、共産党主導の政権成立 西側諸国の危機感の高まり

2)[43]](WEU)条約締結=英仏蘭ベルギールクセンブルクの反共軍事同盟

↓
3) 1949 [44]]([45]])結成 WEU+米加伊など

4)(1947 共産党情報局=コミンフォルム) 1955 東ヨーロッパ友好協力相互援助条約=[46]]結成

⑤ドイツ問題の深刻化= 1947 事実上東(ソ)・西(米英仏)の管理地区が分裂

1) 1948 西側地区での通貨改革の実施 ↓ [47]]を断行→ 米英仏、大空輸作戦で対抗 ([48]] [48 ~ 49])

3)1949[49]]=西ドイツ(首都 ボン) 首相[50]]、1954 パリ協定で主権回復 1955([51]])加盟

4) [52]]=東ドイツ(首都ベルリン) コミンフォルム、コメコン参加

⑥ 1955[53]]条約=永世中立国として独立